

拒絶理由通知書

特許出願の番号	特願2006-519314
起案日	平成22年10月 7日
特許庁審査官	石田 信行 9469 5S00
特許出願人代理人	新居 広守 様
適用条文	第29条第2項

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものです。これについて意見がありましたら、この通知書の発送の日から60日以内に意見書を提出してください。

理 由

この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前に日本国内又は外国において、頒布された下記の特許公報に記載された発明又は電気通信回線を通じて公衆に利用可能となった発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。

記 (引用文献等については引用文献等一覧参照)

- ・請求項：1，5
- ・引用文献等：1，2

[備考]

引用文献1（特に、段落【0054】～【0073】、図13～15参照）には、有料放送を受信する受信機であって、前記受信機毎に異なるデバイス鍵とデバイス鍵識別を記憶するデバイス鍵メモリと、ICカードとの相互認証時に、前記デバイス鍵メモリに記憶されている前記デバイス鍵識別をICカードに出力する受信機が記載されている。

引用文献2に記載されているように、装置が、ソフトウェアを保存する供給媒体から供給されるソフトウェアプログラムの実行時に、装置固有のIDをライセンスサーバに出力することは周知技術であることから、

引用文献1に記載の受信機において、ソフトウェアを保存する供給媒体から供給されるソフトウェアプログラムの実行時に、デバイス鍵メモリに記憶されているデバイス鍵識別をICカードに出力するようにし、請求項1及び5に係る発明とすることは、当業者が容易になし得たことである。

- ・請求項：2～4
- ・引用文献等：1，2

[備考]

引用文献2（特に、段落【0026】参照）に記載されているように、装置に暗号化された装置固有のIDを記憶し、装置固有のIDの照合時に、暗号化された装置固有のIDを復号化することは周知技術であることから、

引用文献1に記載の受信機において、受信機に暗号化されたデバイス鍵識別を記憶し、デバイス鍵識別の照合時に、暗号化されたデバイス鍵識別を復号化するようにし、請求項2乃至4に係る発明とすることは、当業者が容易になし得たことである。

- ・請求項：6
- ・引用文献等：1，2

[備考]

引用文献2には、装置固有のIDが所定の条件を満たす場合にのみソフトウェアの使用を許可することが記載されている。

- ・請求項：7，8
- ・引用文献等：1，2

[備考]

引用文献2（特に、段落【0033】参照）には、他の装置が、装置固有のIDをLAN経由で読み取れることが記載されている。

- ・請求項：9～12
- ・引用文献等：1，2

[備考]

引用文献1に記載された受信機において、デバイス鍵識別をメッセージとしてメッセージ表示するようにし、請求項9乃至12に係る発明とすることは、当業者が容易になし得たことである。

- ・請求項：14～16
- ・引用文献等：1，2

[備考]

請求項14乃至16に係る発明は、請求項1に係る発明と単にカテゴリのみが相違する発明であることから、請求項14乃至16に係る発明は、請求項1に係る発明に対して示した理由と同様な理由により、引用文献1及び2に記載された事項に基づいて当業者が容易になし得たことである。

<拒絶の理由を発見しない請求項>

請求項13に係る発明については、現時点では、拒絶の理由を発見しない。拒絶の理由が新たに発見された場合には拒絶の理由が通知される。

引用文献等一覧

1. 特開2003-153227号公報
2. 特開2001-265581号公報

先行技術文献調査結果の記録

- ・調査した分野 IPC H04L 9/08
 G09C 1/00
 G06F 21/24
 G11B 20/10
- ・先行技術文献 特開2003-204320号公報
 特開2003-37590号公報
 特開2002-152194号公報

この先行技術文献調査結果の記録は、拒絶理由を構成するものではありません。

この拒絶理由通知の内容に関するお問い合わせ又は面接のご希望がございましたら下記までご連絡ください。

特許審査第四部情報セキュリティ 石田 信行
TEL. 03(3581)1101 内線3546
FAX. 03(3501)0737